

1. イスラエルのトルコ・シリア地震支援に感謝して

2月6日に大地震が襲ったトルコ・シリアでは、両国の死者が5万人を超えました。今後、震災関連死を含め、さらに犠牲者が増えることが予想されています。

近年、イスラエルとトルコは政治的には、緊張状態にありました。しかし、トルコの要請を受け、イスラエルは、救援のため「オリーブの枝作戦」を決行。地震発生当日には最初の代表団、翌朝には230人の救助隊と物資60トンを送り、野営病院を設置して救援活動を開始しました。派遣先は、日本チームも活動した町（カフラマンマラシュ）です。余震と厳しい寒さの中、19人を瓦礫から救出し、470人を治療。約1週間の活動を終えて帰国しました。

イスラエルが治療した負傷者には、シリア難民もいます。中には、4歳の男の子もいて、シリアからトルコに避難している間に被災。家族は全員亡くなり、叔父が病院に運んできました。医療スタッフがシリア人の話すアラビア語で男の子に話し掛け、ハルヴァというゴマのお菓子を差し出しました。すると男の子は、うれしそうに食べました。見ていた叔父が言いました。「あなたたちイスラエル人は、私たちの同胞よりも良くしてくれた!」

トルコでは、最近、ユダヤ人を狙ったテロ事件が起きていました。シリアでは長く内戦が続き、イ

スラム過激派の支配地域もあります。人道支援とはいえイスラエル救助隊が狙われる危険もありました。実際、イスラエル軍の他に活動をしていた民間のイスラエルチームは、差し迫った危険のために緊急撤収しなければなりません。そんな特殊な状況を承知で任務にあたったイスラエル救援隊に、トルコの人々から「ありがとうイスラエル!」「あなた方のことは忘れない!」と感謝の声が上がっています。

イスラエルは小さな国ですが、災害が起これば、いち早く救助隊を派遣します。その数は、外交関係がない国も含めて140地域。今回の地震でも、民間の救助隊を加えると450名を超えるイスラエル人が救援活動を行いました。これは世界第2の派遣数です。助けられた人々の心には、命を貢ぐイスラエルの真の姿が残ることでしょう。



©IDF Spokesperson's Unit CC BY-SA 3.0
イスラエル救助隊メンバー

「わたしはあなたを国々の光とし、地の果てにまでわたしの救いをもたらす者とする」(イザヤ49:6)

- ❶ 寒さと飢え、不衛生、失望の中にある被災者に主の癒やしと慰めと、具体的な助けがあるように。
- ❷ イスラエル救助隊に救出された人、活動を知った人々の心から、イスラエルへの誤解や憎しみが消え、理解と友情へと変えられていくように。
- ❸ イスラエル救助隊が今後も尊く用いられ、国々の光として神が与えた使命を全うできるように。

2. 止まらない物価高と生活苦しさを覚えて

世界的に物価上昇が叫ばれる中、日本においても物価高が止まりません。電気代やガス代の高騰も生活苦しさに追い打ちをかけています。オール電化の家庭では「1カ月の電気代が10万円を超えた」と

いう事例も報じられました。一方、東京電力など電力大手5社は、4月からの電気料金の値上げを発表しました。

こうした中、生活苦しから抜け出せない人々が多く

います。生活保護受給者は、減少に転じているものの、依然200万人以上。貧困層は一人親世帯や単身の高齢世帯に多く、特に一人親世帯の相対的貧困率、つまり、生活水準の平均以下の暮らしをしている世帯は50%を超えています。

一方、日本の賃金は25年前とほぼ変わらず、物価高に対応できない家庭が増えています。

苦境にあるのは企業も同じです。ある工場経営

者は取材に対し、「電気料金の高騰で赤字になりかねず、かなり厳しい」と明かしました。今後も高騰が続くと、この会社では年間の電気料金が前年と比べて5千万円も高くなる見込みとのこと。

神は、貧しい人々に特別に目を注ぎ、あわれんでくださいます。経済的苦境にあるこの国と国民の生活が支えられるよう祈りましょう。

どうか 貧しい人々が食べて満ち足り 主を求める人々が主を賛美しますように。

—あなたがたの心がいつまでも生きるように— (詩篇22:26)

- ① 備え主である主が、経済苦にある日本の家庭の必要を満たして下さるように。
- ② 日本政府や関係者に、日本の経済的苦境を打開する策と知恵が与えられるように。
- ③ 生活苦から命を落とす人が出ないように、主があわれんで下さるように。

3. 2023年ビジョン 主のくびきを負い、安らぎを得るために

今回のビジョン・メッセージで学んだように、私たちクリスチャンはイエスさまのくびきを負い、神のご計画を共に進める者として召されました。その結果、神から来る真の平安を頂くことができます。

真の平安を知らなければ、人は不安に陥りやすくなります。事実、社会に不安要素が増えるにつれ、うつ病を患う人が増加する傾向にあります。コロナ禍以降、日本のうつ病患者は2倍以上に増えたことが、OECD（経済協力開発機構）の国際調査で判明しました。

自然災害が多い日本では、愛する人や家などを

失い、PTSDに苦しむ方も少なくありません。東日本大震災から10年以上たった今でも、心の不調を訴える被災者の方々がいます。福島県立医科大学の2019年のアンケートによると、精神疾患にかかっている被災者は約6%と高い数値でした。

社会情勢はますます暗くなるばかりです。しかし、主の元に帰ることこそ、たましいに安らぎを得る道です。そして、キリスト教会は、この神の平安を体現する存在です。さまざまな不安を抱える人々が教会に足を運び真の平安と救いを得られるように、主のくびきを負って祈りましょう。

すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。……あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎを得ます。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。(マタイ11:28~30)

- ① 日本の諸教会が主のくびきを負い、神の計画に仕え、安らぎを得られるように。
- ② さまざまな不安から精神的な病を抱えている方々が、癒やされるように。
- ③ 主を知らない日本の多くの国民が、教会を逃れの場とし、救いと平安を得るように。

「ハイレイトソング」
視聴・譜面のダウンロード



<https://www.bfpj.org/music/>

「ハイメール通信」
祈りの第一声として
祈禱課題をお届けします(不定期)



<https://www.bfpj.org/pray/chaimail/form/>